

講義情報

講義情報番号	
講義表題情報	
* 開講学年1	2
* 入学年度1	2017～
* 対象学科1	経営学科
* 科目名1	地域表象論
担当教員情報	
* 担当教員	畦地真太郎
講義詳細情報	
* 講義目的 講義内容	<p>地域はアイデンティティの大きな源の一つであり、育った／居住する地域の特性は人格形成に大きな影響を与えている。一方で、多くの人は自分自身を知らないのと同様に、自分の地域の本当の姿を知らない。</p> <p>本講義では、“自分”と“自分の地域”の関わりを解き明かす方法を身につけ、実際に地域表象の理解を深めていくことにより、他地域との相互尊重を行うことのできる知識と態度を涵養する。それにもとづいて、地域資源の発掘、交流人口の増大、人口減少社会におけるコミュニティの持続など、現代的な地域経営の問題に対応するための基礎的な議論を行う。</p>
* 到達目標	<p>① 自らのアイデンティティの源となっている地域について、その価値を知り、本当の姿を他地域の住人に対して示すことができる。</p> <p>② ①に基づき社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)における「規範・信頼・ネットワーク」の概念を実践的に修得する。</p>
* 授業計画 授業外学習	<p>※アクティブラーニング科目としての位置づけ: 明示的に「グループワーク」や「ディスカッション」とする授業回以外においても、自分を形作る地域について自己理解を促し深めるよう、学生から反応・回答・意見を求める形で進行するため、授業に対する積極的な関与が求められる。</p> <p>1. アイデンティティと地域表象 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>2. 地域自己ステレオタイプ(グループワーク) 自分の出身地についてのイメージを記述し、ピアワークとして他者のそれとを比較しふり返しを行う。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>3. 地尊心: 地域と自己とイメージ(グループワーク) 自分の出身地のイメージがどのように自己イメージの形成に関与しているかを記述し、ピアワークとして他者のそれとを比較しふり返しを行う。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>4. 創られた伝統と地域(グループワーク) 自己を形成する地域における習慣や行事・歴史などの意味づけを、ホブスボウムの「創られた伝統」概念に立脚して考え、その実装を調査し、全体で議論する。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>5. 認知地図の構成要因(グループワーク) 人のメンタルモデルの働きについて「現実の地図と認知地図の差異」「認知地図の個人差」の観点から体験し、他者のそれとの比較とふり返しを行う。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>6. 地域と自己を表すランドマーク 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>7. 地域表象(イメージ)の測定(グループワーク) 定量的手法(SD法/役割構成体領域検査)に基づく地域イメージの測定を体験し、結果について全体議論とふり返しを行う。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>8. 自分を形作った地域の実例(ディスカッション) 主として担当教員を形作った地域の要素について紹介し、それを元に各自のそれについて全体議論とふり返しを行う。授業後半回の理論的内容と、期末レポート作成の手がかりとする。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>9. 地域表象の構成要素1: 地理・歴史と産業 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>10. 地域表象の構成要素2: 人材 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>11. 地域表象の構成要素3: 食 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>12. 地域表象の構成要素4: 伝説と民間信仰 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p>

	<p>13. 地域表象の構成要素5: 音楽と祭り 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>14. 地域表象の構成要素6: コンテンツの中の地域 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p> <p>15. 地尊心の構築と地域表象(ディスカッション) 第1～14回の授業内容を元に、自己を形成する地域の役割、自己と地域の関与について、受講前後で変化した点についての全体討議を行い、授業内容に関するふり返しを行う。 事前学修: 提示されている講義資料を元に、「自分を形作った地域」と自己との関わりを考える。(2時間) 事後学修: リアクションペーパーを元に「自分を形作った地域」の調査と自己との関わりを考え、次回授業の準備を行う。(2時間)</p>
* 履修の条件 注意事項	第1回授業に必ず参加の上、授業進行や成績評価などについて、担当教員の指導を受けること。
* 成績評価基 準 方法	<p>平常点60%: 毎回、ノートと小課題の提出を要する。提出物は原則として次回に採点結果・コメントを付して返却する。 定期試験40%: レポート試験を予定している。 なお、成績評定に際しては一部に相対評価を取り入れる場合がある。 ①自己を形成する地域の役割、②自己と地域の関与について、③自己と社会関係資本についての理解度を評価基準とする。</p>
* テキスト	授業に用いるスライド・資料類と、詳細なシラバス・諸連絡等を、朝日大学Moodle上に掲示する。
参考書	必要な場合は、授業中に適宜指示する。